

—ラジオ関西「聴く医療」に出演—

尼崎支部から3人の先生が在宅医療を語る



ラジオ出演された寺嶋慎也先生(左・ZOOM出演)、豊國剛大先生(中央)、大前隆仁先生(右)

尼崎支部の寺嶋慎也先生が「在宅医療のい・ろ・は」のテーマで11月30日に、豊國剛大先生が「リビングウイル・ACP(人生会議)」のテーマで12月7日に、大前隆仁先生が「在宅医療の緩和ケア」のテーマで12月14日にそれぞれラジオ関西協会提供番組「聞く医療」に出演した。

聞き逃された方は協会ホームページにて視聴できます。

「兵庫県保険医協会の聴く医療」
2024年度特設ページ

URL:<http://www.hhk.jp/topics/2024/1204-090000.php>
右の二次元コードもご活用ください



兵庫県保険医協会 尼崎支部ニュース

447号

2025年1月25日付

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階 兵庫県保険医協会 尼崎支部
TEL078-393-1801 FAX078-393-1802



兵庫県保険医協会尼崎支部長
綿谷 茂樹

新年あけましておめでとうございます。

日々、地域医療に尽力されている先生方に心より敬意を表します。

旧年中は尼崎支部の諸活動にご理解とご協力を賜わり厚くお礼申し上げます。

本年も変わらぬご支援を賜わりますよう、何卒、よろしくお願い申し上げます。

昨年元日に発生した能登半島地震、そして9月の能登被災地での記録的な大雨でお亡くなりになった方々に改めてお悔やみ申し上げるとともに被災された皆さまにお見舞い申し上げます。皆さまの安全と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

今年には阪神・淡路大震災後30年の節目の年です。当時は多くの被災者が立ち上がり、元通りの生活ができるような「人間の復興」を、と声を上げ続けてきました。協会も「阪神・淡路大震災救援・復興兵庫県民会議」に参加し、当時の合志至誠理事長(合志病院院長)を先頭に運動に加わってきました。その結果、個人補償はしないとしていた国に、住宅再建費用を支給させる「被災者生活再建支援法」を成立させるなど、大きな前進がありました。今後も記憶を風化させずに、私たちができることを考えて行動していくことが大切だと思います。

また医療に目を向けますと、長く続く低医療費政策に加え、物価高騰や人件費の上昇、従業員不足により、多くの医療機関の経営は悪化傾向です。昨年12月には保険証の新規発行が停止されました。今後のマイナ保険証の利用率上昇と保険証の期限切れによる医療現場でのトラブル増加が懸念されます。引き続き尼崎支部会員からの声を集めて「保険証廃止反対」の活動をしていきたいと思っています。

支部活動では、30年以上継続している「医療と福祉を考える会」をはじめ、学術研究会や経営セミナー、職員向け研修会や文化企画など多彩な行事を予定しています。今年も先生方のご要望にお応えする支部活動を更に発展させるべく、引き続き尽力して参ります。

先生方のご健康とご多幸をお祈り申し上げて新年のご挨拶とさせていただきます。

今年もよろしくお願ひ致します 支部役員一同



< 医院経営研究会のご案内 >

引退のタイミングを決めかねている、継承者が不在、継承開業を検討中、など

医院継承セミナー(医科向け)

日時: 2月15日(土) 15時~17時

会場: 尼崎市中小企業センター 503(昭和通2丁目6-68、TEL: 06-6488-9501)

◆第1部 15:00~(45分)「成功する! 医業継承の進め方・ポイント」

講師 市岡 寛也氏(総合メディカル(株)西日本継承支援部)

◆第2部 16:00~(45分)「診療所継承の一事例

~継承開業の苦難から見えるもの~」

講師 寺嶋 慎也先生(尼崎市・ゆたかクリニック院長)

◆個別相談会(事前予約制)

※お問い合わせは、TEL:078-393-1805 事務局 沖野・石本・林まで

尼崎社保協が尼崎市と懇談

国民健康保険の改善、資格確認書の全員交付 補聴器購入補助、介護保険料引き下げを求める

尼崎社会保障推進協議会(会長・綿谷茂樹協会尼崎支部長)は11月20日、尼崎市に提出していた要望書に基づいて、尼崎市担当部局と懇談した。協会と尼崎医療生活協同組合など5団体から21人が参加した。

市民の不安を受け止め、 保険証存続・資格確認書の 全員交付を

現行健康保険証の廃止について、市民の生命にかかわる問題であり、協会会員アンケートで90%の会員が廃止に否定的なことなどを示して、国に対して保険証存続を求めるように要請した。市は、2024年1月の懇談で「丁寧にお知らせして廃止等の不安軽減に努める」と回答して以降も、マイナ保険証利用率が1割台に留まっている実態には触れず、国の方針通りすすめる考えを示した。



医療・福祉の切実な要求実現を尼崎市に求めた

資格確認書について、マイナ保険証を持っている人も含めた全被保険者への発行を求めたことに対して、市は「マイナ保険証を持っている人には交付しない」と説明。一方、12月2日以降後期高齢者になれば「混乱と高齢者への配慮」からマイナ保険証を持っている人でも7月末までは交付するが、74歳以下の人にはシステム修正に費用がかかるとの理由で対応しないとの説明がされた。社保協から、「年齢を問わず、保険証の取り扱い変更を理解できない人が多い。75歳から混乱を招くという線引きが理解できない。市民が安心して医療を受けるためにどうすべきかを考えることが第一だ」として全被保険者への発行を迫った。

マイナ保険証の利用登録解除について、マイナカード更新自体が難しい人もあり、また資格確認書が交付されるのなら解除したいという市民の声を紹介して、幅広い周知を求めたところ、市は「市のホームページに今月掲載したくらいなので、今後検討していきたい」と述べた。

2030年に予定されている兵庫県内自治体の国保保険料統一について、今年度実施された大阪府では保険料が大幅に上がって全国で最も高くなり、府内自治体から改善要望が出されていたことも紹介して尼崎市の見解をただした。市は「統一になれば、法定外繰入や基金活用ができなくなる。急激に保険料が上がらないように法定外繰入金を徐々に減額している」と回答した。社保協から、市民の立場に立った保険料統一への対応や、高額な保険料のため未納者が4,000世帯以上もある現状を示して法定外繰入金を増額することを求めた。

歯科医療の保険適用範囲拡大を国に求めよ

保険で受けられる歯科治療の範囲拡大を国に要望してほしいとの要請に対して、市は「被保険者資格の管理等の保健事業を担うことが市の役割。国に要望する考えはない」とした。社保協から、2013年に尼崎市議会が全会派一致で保険適用拡大を求める意見書を採択していることを示して、健康向上へ市民が安心して歯科治療を受けるために何ができるのかという視点に立った市政運営を求めた。

(3面へつづく)

(2面からのつづき)

せめて加齢性難聴者への補聴器購入補助を

難聴者の補聴器購入補助について国に対して保険適用を求めること、実現するまでは独自の助成制度措置を求めたことに対して、市は「県が国に対して要望をあげているのでその対応を注視したい。市単独の財政負担ではむずかしい」と述べた。社保協から、「認知症などの進行を緩やかにすることが期待できることが広く認識されている。県下15自治体でも助成している。対象をしぼってでもまずは制度をスタートさせてほしい」と重ねて要望した。

県下一高い介護保険料の引き下げは不可欠

県下一高い介護保険料への対応については、25%にとどまっている国の負担割合を抜本的に引き上げることを市単独で国に要望してほしいと要請した。市からは「全国市長会などを通じて要望している。市財政からの繰り入れは難しい。それよりも介護予防に力を入れたい。介護サービスを使わなくても身の回りのことができる人はそうしたほうが健康寿命を延ばせる。結果として市民の保険料も下がる、訪問介護事業所の人手不足解消にもつながる」と介護保険利用の制限につながりかねない回答がされた。

そのほか、訪問介護事業所の倒産が止まらず、職員を採用しても集まらないことや、70～80歳代のヘルパーが第一線で働き、若い人に仕事を引き継げない実態を示し、市の対策をただした。また、介護認定の申請から認定までの期間が遅れていることについて、市は「2カ月かかったところが職員を2人採用して、40～50日となったものの、30日は無理」と回答。社保協から「認定までの期間が長期化すると介護サービスを利用できかねない。介護保険法で定められている30日以内を遵守すべきだ。市の担当者が無理と言うのはいかなるものか」とただした。

尼崎市政へ改善要望をお寄せください

地方自治法で、自治体は住民の福祉の増進を図ることが責務とされている。社会保障の立場に立ち、国や県の圧力の防波堤になって、市で何ができるのかとの点で、尼崎市の回答は納得できるものとはいいがたい。尼崎社保協では引き続き、市の社会保障施策の改善を要望していく。会員の先生には、尼崎市政の改善要望を協会事務局へお寄せいただきたい。

尼崎社保協が、「年末無料相談会&健康チェック」を開催



市民からの相談に丁寧に対応した

尼崎社会保障推進協議会は12月14日、東尼崎診療所で「年末無料相談会&健康チェック」を行った。

税金、保険料、電気料金の値上がり、経営悪化や失業などに加えて、相次ぐ物価高騰の影響もあり、市民の生活が苦しくなっている。今回の相談会は、こうした不安を抱える市民の相談に応じる目的で開いたもの。

当日は5人の市民から、介護・生活保護・障がい・医療・年金などの相談があり、社保協から具体的なアドバイスも含めて丁寧に対応した。健康チェックでは、血圧・体脂肪・ベジ(推定野菜摂取量)チェックを実施した。尼崎社保協では、今後も相談会を行うことにしている。